

平成 20 年度第 3 回（6 月）理事会議事録案

- ◇ 日 時：平成 20 年 6 月 12 日（木）午後 6 時 30 分～8 時 01 分
- ◇ 会 場：社団法人大阪府臨床検査技師会事務所
- ◇ 出席者：今井、運天、竹浦、吉本、高田、清水、荒木、田畑、高橋、井戸田
出野、山田、宮野、酒井、栗本、山西、小宮山、東野、村上、事務（仲野）
- ◇ 欠席者：大垣
- ◇ 議 長：今井

【 討議内容 】

I. 行動報告（5 月分）

別紙参照

II. 経過報告

1. 日臨技

- ・ 平成 20 年度第 1 回定期総会（決算総会）を 5 月 29 日札幌で開催した。
- ・ 平成 20 年度各種表彰があり、大臨技会員から、日臨技有功賞・功労賞を山内孝臣氏（結核予防会大阪府支部大阪病院）、日臨技学術奨励賞を花田浩之氏（大阪大学医学部附属病院）が受賞した。また、永年職務精励者は大阪 173 名であった。

2. 近臨技

- ・ 理事会を 6 月 11 日に開催した。
- ・ 会長に瀬田正憲氏（滋賀県会長）、副会長に今井宣子氏（大阪府会長）、山本慶和氏（奈良県会長）が就任した。
- ・ 日臨技近畿支部は 2 年後にスタートし、定款・組織運営規程の変更がある。
- ・ 公益事業には事業費の 50% の補助があり、日臨技に 2 ヶ月前に申し込みを行う。

3. 事務局

〈総務部〉 5 月 14 日に部会を開催した。

- ・ 平成 20 年度第 1 回定期総会の運営について確認した。
- ・ 賛助会員の対応について検討した。
- ・ 「年輪」の作成について討議した。
- ・ 新印刷会社について検討した。
- ・ 「大臨技会報（通巻 194 号）」の作成について検討した。
- ・ 大臨技ニュース内容について討議した。
- ・ 大阪府地域医療推進協議会からの署名依頼について説明した。

〈広報〉

- ・ 大臨技ニュース 6 月号発行した。
- ・ 大臨技ホームページを更新した。

〈会計〉

- ・ 4 月度収支計算書を作成した。
- ・ 会計事務所と平成 19 年度決算報告書について面談した。

〈渉外部〉 5 月 20 日に部会を開催した。

- ・ 「看護の日」の報告として、血糖 305 件、頸部エコー 170 件、尿検査 94 件実施し、

スタッフの参加は、延べ 32 名であった。

- ・ 今年度の献血推進活動日程は、8 月 9 日と来年 2 月 14 日の予定とする。
- ・ 手話講演会、合同フォーラムの進捗確認を行った。

4. 事業局

〈情報組織部〉5 月 15 日に部会を開催した。

- ・ 4 月 25 日開催された職域部会の反省会を行った。
- ・ 収支管理研修会（7 月 12 日）の内容検討をした。

〈地区事業部〉5 月 10 日に部会を開催した。

- ・ 第 11 回大臨技フォーラム（6 月 21 日・大阪中央会館）について討議した。
- ・ 会員交流会（9 月 13 日）について討議した。
- ・ 第 23 回大臨技中央支部自由集会（7 月 26 日・大阪府立成人病センター）にて、演者 2 名による、「平成 20 年度の診療報酬改訂に伴い、細菌検査における検体検査管理加算の取得について」を開催する。

〈学術部〉

- ・ 6 月 13 日に開催予定である。

III. 他、報告

1. 第 11 回大臨技フォーラムの進捗状況について

- ・ 日時・場所：6 月 21 日（土） 13：30～17：00 大阪市中央会館
- ・ 会場の大阪市中央会館案内ポスターを地下鉄「長堀橋」駅に掲示していただくよう依頼した。
- ・ 会場に「JCCLS」日本臨床検査標準協議会より書籍販売の依頼があったが、先方より辞退され、申込みのみ取り扱うこととする。
- ・ 抄録集広告協賛とし賛助 4 社より申込みがあるが、事業費の 50%を上回らないように留意する。

2. 第 3 回大臨技教育セミナーの進捗状況について

- ・ 日時・場所：7 月 19 日（土） 14：00～17：00 関西医科大学附属滝井病院
- ・ パンフレット等は例年作成していないが、今年度は小冊子を作成する予定である。

3. 会員交流会の進捗状況について

- ・ 日時・場所：9 月 13 日（土） 14：00～ JICA 大阪
- ・ 第 1 部は近臨技担当でアフリカからの情報提供、第 2 部は地区事業部担当でアフリカとの交流を図る、第 3 部は懇親会を行う。
- ・ 今後、本来の会員交流を目的としたものに改めるよう検討する。

4. 第 4 回府民健康フォーラムの進捗状況について

- ・ 日時・場所：1 月 22 日（土） 14 時～17 時 YMCA
- ・ 6 月 4 日に大阪府薬剤師会館にて第 1 回打合会を行った。
- ・ 「運動療法とメタボリックシンドローム」をテーマとし、初めての試みとして開始前に相談コーナーを設ける予定である。

5. クールダウンのクレームについて

- ・ 前回のクレームに対し、会長より謝罪文を送付した。
- ・ 再度会員よりクレームが届いたが、7 月号ニュース Cool Down コーナーに、掲載終了のお知らせと謝罪文を掲載する。

6. その他

- ・ 賛助会員の未加入企業に対し各理事より再要請する。
- ・ 「微量採血のための穿刺器具（針の周辺部分がディスプレイタイプでないもの）の取り扱いの周知徹底を行う。詳細は日臨技の HP でも確認できる。
- ・ 「日本臨床衛生検査技師会史」掲載「大臨技沿革」の誤記記載に対し、再送されたものにはまだ不安が残る。官公庁等には、大臨技として納得のいくものを出して欲しい旨を、日臨技に再度要請する。
- ・ 兵庫県技師会より、「第 48 回近畿医学検査学会一般演題募集の案内」の配布依頼と、演題募集の呼びかけをして欲しいとの要望があった。
- ・ 「公益認定等ガイドライン等に関する説明会」が 6 月 4 日に開催された。運天副会長より、4 月 11 日に「公認認定ガイドライン」が公表されたこと、大臨技としては認定条件をほぼ満たしているのではという説明があった。「新公益法人制度への移行に関するアンケート」への回答の提示があった。
- ・ 研修会会場案内として「財団法人大阪観光コンベンション協会」の HP より、コンベンション情報、コンベンション施設検索ができ、会場確保に役立てたい。

IV. 議 題

1. データ標準化について

- ・ 8 月 3 日大阪市立大学病院にてボランティアの協力のもと、プレサーベイ用のプール血清を作成する。基幹施設への試料配布は、宅急便にて予算内で行う。
- ・ 大臨技フォーラムに向け正式な手引き書・案内書を作成するが、プレサーベイの結果次第では、10 月本実施時に若干内容に変更が生じるかもしれないが、その旨了承をいただきたい。
- ・ 大臨技独自の提案として、「基幹施設」に変わる名称を今後検討して欲しい。

2. 医療経営教育協議会の件について

- ・ 「医療経営人材育成基礎研修」の後援名義に関しては承諾しないこととし、今後の動向をみる。

3. 経理内容について

- ・ 荒木会計担当理事より会計処理として以下の点に留意するよう指摘があった。
 - ① 事業費管理口座として個人名ではなく、大臨技事業部名での記載の徹底。
 - ② 領収書名は「大臨技」で統一する。10 万円を超える場合は「(社) 大阪府臨床検査技師会」の明記が必要である。
 - ③ 講師料の報告は翌月 5 日までに必ず行う。

4. その他

- ・ 「臨床検査科の標榜」について問い合わせがあり、このような時の対応として、詳細は厚労省あるいは日臨技に聞いていただくよう回答する。
- ・ 日臨技への公益事業申請を積極的に行っていく。